

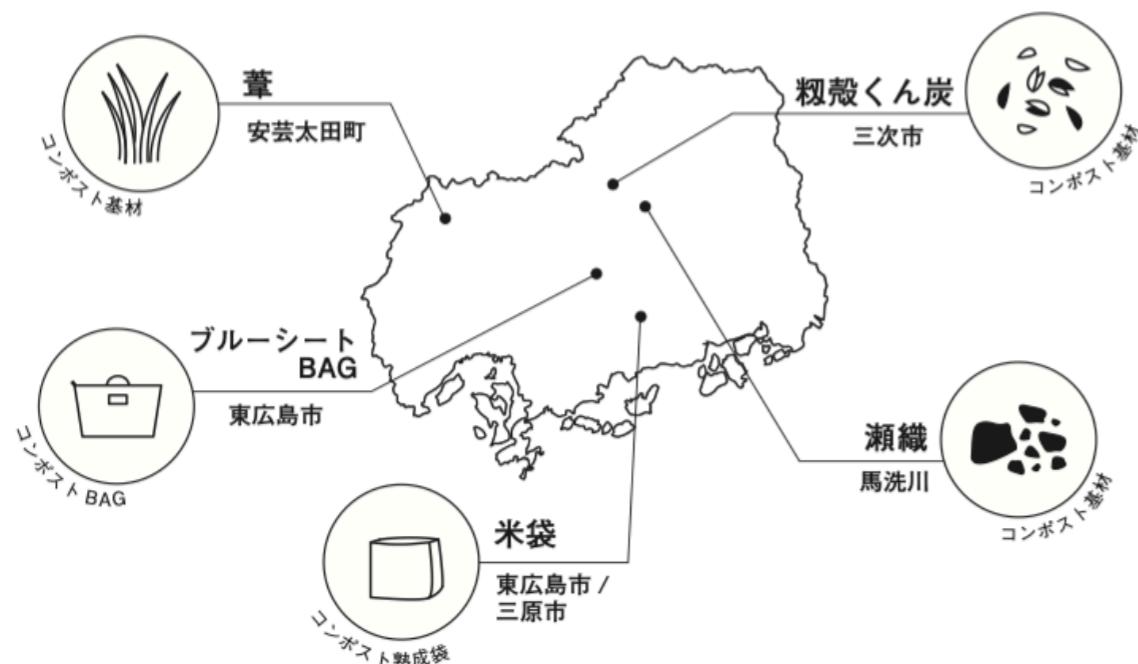
Setouchi Compost vol.2 2021

生ゴミが堆肥に変身！せとうちコンポストで環境に優しい土作りをしよう

せとうちコンポストは自宅の生ごみを自然分解させて土を作るためのセットです。生ごみを土に分解する為の基材は、「葦」、「もみ殻くん炭」、馬洗川の天然泥から作られた土壌改質材「瀬織」と瀬戸内地方で作られた天然素材のみで形成されています。vol.2ではリサイクル材としてブルーシートBAGと熟成用の米袋とのタイアップにより、従来とはまた違った循環型のコンポストセットが完成いたしました。

POINT

- 1 環境に関して何か始めたいが、何をしたら良いかわからない方々におすすめ。環境に優しく手軽に始められます。
- 2 コンポストの基材やBAG・米袋と全て広島県内のリサイクル材を使用しており、楽しみながら各地域を応援できます。
- 3 従来のコンポストでは通常、生ごみ投入箱・熟成箱と2つ必要でしたが、vol.2ではその悩みを解決する為に1BOXで循環型を完成させました。



都市で生活をしていると、いつのまにか自然環境と切り離されていると感ずることがあります。

私たち人間も自然の一部であるということを、つい忘れてしまいがちです。

そこで、一番身近な「自然」である「食べもの」を通して、都市と地方を結ぶ新しい循環を作りたいと考え、「せとうちコンポスト」が生まれました。

せとうちコンポストに使われているのは、「葦」「もみ殻くん炭」「瀬織」という広島県内の自然素材です。これらはすべて、余剰で放置・廃棄されていたり、電気や石油などのエネルギーを使って処分されたりしているものを、自然に負荷をかけずに有効活用したものです。

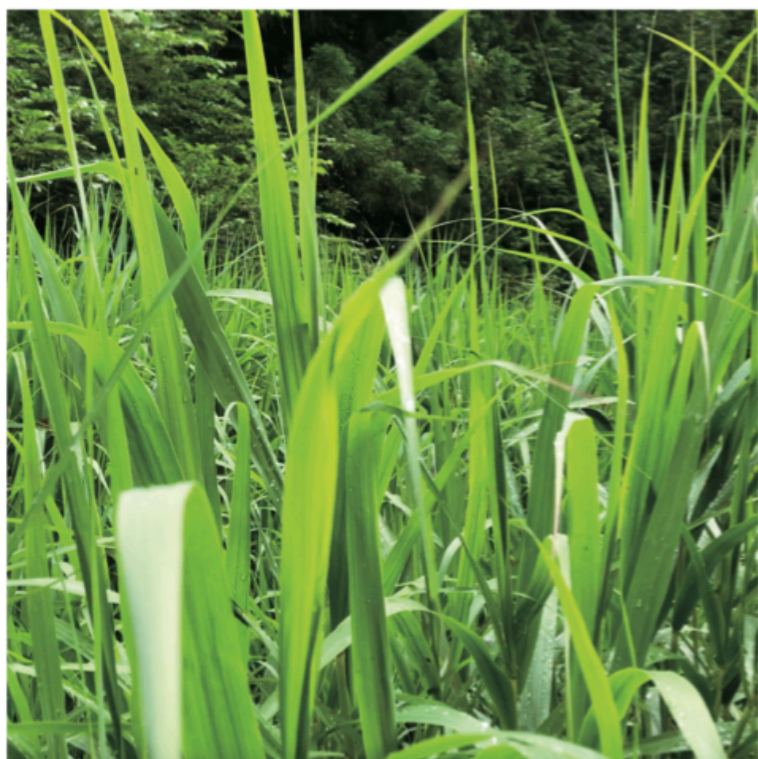
せとうちコンポストを使って、家庭からの生ごみを減らし、かつ、堆肥にすることで、都市にいながらにして、積極的な環境活動に参加できます。

また、「食べ残し」や「フードロス」、そして「何をかうか」という視点からも環境問題を考えるきっかけにいただけたら、という思いもあります。

お子さまがいらっしゃるご家庭では、ぜひ、一緒に土づくりを楽しみながら、自然の循環や環境について考える時間を作っていただけたらうれしいです。

1 安芸太田町の「葦」

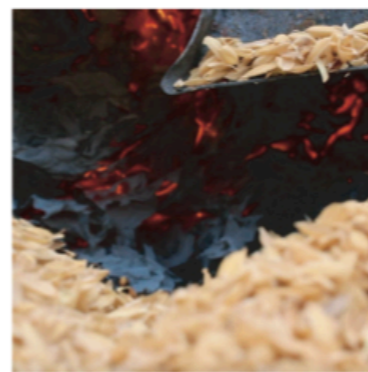
コンポスト基材



葦（よし）は、水辺に密集して生育する植物です。水の浄化作用が高く、水中の窒素やリンを吸収するため、昔は肥料にも使われていました。しかし今は、葦が活用されなくなり放置されているため、河川に茂り過ぎている状態です。適度に葦を刈って堆肥づくりに活用することで、生態系を維持しながら、子どもたちが水辺で遊べる場所も確保できます。

2 三次市の「もみ殻くん炭」

コンポスト基材



お米を収穫したあとに大量に廃棄され行き場に困る「もみ殻」。この“お困りモノ”を、炭という“お宝モノ”にして有効活用したいと思い作ったのが「もみ殻くん炭」です。消臭・防虫効果のほか、酸性化した土壌を中和し、微生物が好む環境を作ります。また、土中に埋めることで大気中に放出されるCO₂を削減できます。



本宮 炎 NPO 法人さんけん代表理事

陶芸家 青耀窯代表。安芸太田町・三段峡の魅力を伝える案内人として、子ども達に地域の自然や歴史文化を伝える活動に力を入れている。三段峡をアウトドアミュージアム（野外博物館）のモデルと位置づけ、環境や生物・生態のみならず、リサイクル材等のデータの収集・研究・公開もしている。



牧 麗佳 炭よいプロジェクト代表

大学で海洋生態学を学んだ後、公益財団法人日本自然保護協会にて勤務。その後フリーランスで地方自治体の自然再生調査や環境教育事業に携わる。2008年より炭を使った森林再生事業を開始。2018年からは「炭よいプロジェクト」を立ち上げ、もみ殻くん炭の可能性を探っている。



3 東広島市の「堆肥用 BAG」

コンポスト BAG



地元ハウスメーカー日興ホーム様から建築で使用されたブルーシートを譲り受け、新たに命を吹き込むことによって、「アップサイクルコンポストバッグ」として生まれ変わりました。

軽く、丈夫で撥水性の高いブルーシートバッグに通気口を設け、虫や雨の侵入を防ぐために止水ファスナーを使用しています。



吉田 奈緒子 工房こどもノカ代表

アパレル販売、洋服のリフォームの仕事を経て、2019年に「工房こどもノカ」を立ち上げる。

洋服のリフォームのご依頼からモノを大切にするという意義を見つけ、熊本の復興支援のブルーシートバッグを知った事をきっかけにアップサイクル事業をスタート。



4 東広島市/三原市の「熟成用米袋」 コンポスト熟成袋



30キロ用の米袋は、紙が3枚仕立てになっており軽くて丈夫です。廃棄するはずだった米袋を東広島の黒瀬の「金光酒造」さん、三原の「おこめん工房」さんから提供していただいて作品を作っております。

土を入れると米袋が水分を適度に吸い取り、ゆっくりと土の熟成を促し良質な堆肥へと導いてくれます。

又吉 友紀 infinity 代表

ハンドメイド作家として米袋バッグや布小物を製作。体験型イベント iroasobi を企画・開催。また様々な廃材を使ったアップサイクル商品開発、販売も開始。



5 馬洗川の「瀬織」

せおり

コンポスト基材



「瀬織」の原料は、飲み水になる前の川の水をろ過する際に出る天然泥です。ミネラルや微生物が含まれた天然泥を、太陽と風の力だけで乾燥させる特殊技法で作られています。微生物の力で自然の摂理を形成し、土壌の改をサポートする製品です。瀬織を土に還すことで、再び美しい水を生み出すための「新たな循環」を創ります。



生原 誠之 生原商店代表

飲食店での料理やサービス業を経て、結婚式場三瀧荘にて日本の文化とプロデュース業を学ぶ。その後観光業とSDGsの世界に飛び込み、2020年のコロナ渦に生原商店を開業。株式会社徳本製作所と提携し「瀬織」販売責任者に就任。サステナブルな商品販売サイトをスタート。



生ごみを堆肥にすることで生まれる 自然に優しい循環



“生ごみを通して環境問題と向き合う”

現在、生ごみ1トンを焼却するために760ℓの助燃剤（重油）が必要とされており、

各自治体にとって大きな問題となっています。

また、焼却の際に発生する膨大なCO2も地球温暖化の原因の一つとされています。

世界の温室効果ガス排出の8~10%は消費されなかった商品に関連しています。

各家庭での生ごみを減らすことが、美しい自然を守ることに繋がるのです。

（国連環境計画（UNEP）『Food Waste Index Report 2021』報告書参照）



徳本和義 代表取締役 昭和 17 年 9 月 26 日

- 昭和 40 年：近畿大学工学部 電気工学科 卒業
- 昭和 40 年：太田川東部工業用数水道建設事務所 技師 広島県採用
- 昭和 49 年：土木建築部下水道課 主任
- 昭和 58 年：土木建築部都市局下水道課 施設係長
- 昭和 62 年：消化ガス発電施設建設提案により知事賞受賞
- 昭和 63 年：企業局広島水道管理事務所 白が瀬浄水場 浄水課長
- 昭和 63 年：急速濾過閉塞対策方法を水道協会名古屋大会で研究発表
- 平成 02 年：企業局広島水道管理事務所 瀬野川浄水場 浄水課長
- 平成 04 年：天日乾燥床の乾燥補助にサンドドレーン工作の応用を研究発表
- 平成 05 年：総務部管財課技術補佐
- 平成 08 年：都市局下水道課技術補佐
- 平成 11 年：企業局西部水道事務所 所長
- 平成 13 年：企業局広島水道事務所 所長
- 平成 13 年：天日 2 段乾燥法の開発
- 平成 14 年：株式会社 共立入社
- 平成 14 年：水浄化システム水流発生攪拌混合機を開発 みずきよ
- 平成 17 年：株式会社 ジャパンウオーター入社
- 平成 21 年：汚泥乾燥方法 / 汚泥乾燥装置を開発
- 平成 23 年：徳本製造所 設立

心の声に従い
世の中に役立つことを
一つでも残したい



長年、水道局にて勤務されていた徳本和義さん。
若い頃、水道水の濾過にて出る泥の処理の仕事をしている最中に、
ゴミとして扱われている浄水場の泥に、昆虫（バッタやカマキリ）が集まり
それを舐めている姿を見て、この泥にはミネラルや栄養が凝縮されて
いるのではないかと、思い当たりました。

そして平成 3 年。浄水場の前庭に植えた桜の木の根が、
約 30cm 離れた場所で”凝固した浄水場の泥”の山に目掛けて
細かく毛根を伸ばし反映させている姿を見て衝撃を受けます。
その”凝固した浄水場の泥”こそが「瀬織」の原型。
この事業を始めるための天啓となったそうです。
そこから 50 年以上、現在まで研究は続き、
今まさにその技術が次世代へと受け継がれようとしています。

私の夢はこの技術を、
広島県三次市の宝として後世へ残す事です。 __徳本和義